

# JPX Investor Day 2026

## デリバティブ市場

株式会社大阪取引所 代表取締役社長  
株式会社東京商品取引所 代表取締役会長

**多賀谷 彰**

2026年 7月 2日



# 「中期経営計画2027」における各取組みの位置づけ

## 中期経営計画2027の基本方針

# Exchange & beyond

- 社会課題や利用者のニーズを起点とした顧客本位・マーケットインの姿勢を徹底し、第Ⅰステージで築いた基盤を発展させると共に、新たな領域への積極的な挑戦を続ける
- 我が国の金融・資本市場の中核インフラとして、市場や当社グループへの信頼を高めつつ、資産運用立国の実現を強力にサポートするなど、社会に提供する価値の増大を目指す

成長と分配の好循環の持続

当社グループが社会に提供していくべき価値

足元の外部環境

先端技術等を活用した市場の利便性向上

- CG改革の進展／新NISAの始動
- 地政学リスクの高まり／金利ある世界の到来
- 生産年齢人口減少／持続可能な社会への移行

### エクイティデリバティブ

－ かぶオプ、日経225マイクロ先物、日経225ミニOP

### 金利デリバティブ

－ JGB先物、短期金利先物

### エネルギーデリバティブ

－ 電力先物

### コモディティ

－ 金、上海ゴム

中計2027の重点テーマ

1 日本株市場の新時代を切り拓く

2 総合プラットフォーム化へ邁進する

3 デジタルイノベーションを共創する

第Ⅰステージ  
中計2024

第Ⅱステージ 中計2027  
(2025年度からの3か年計画)

長期ビジョン  
Target 2030

## 1. デリバティブ市場の全体概況

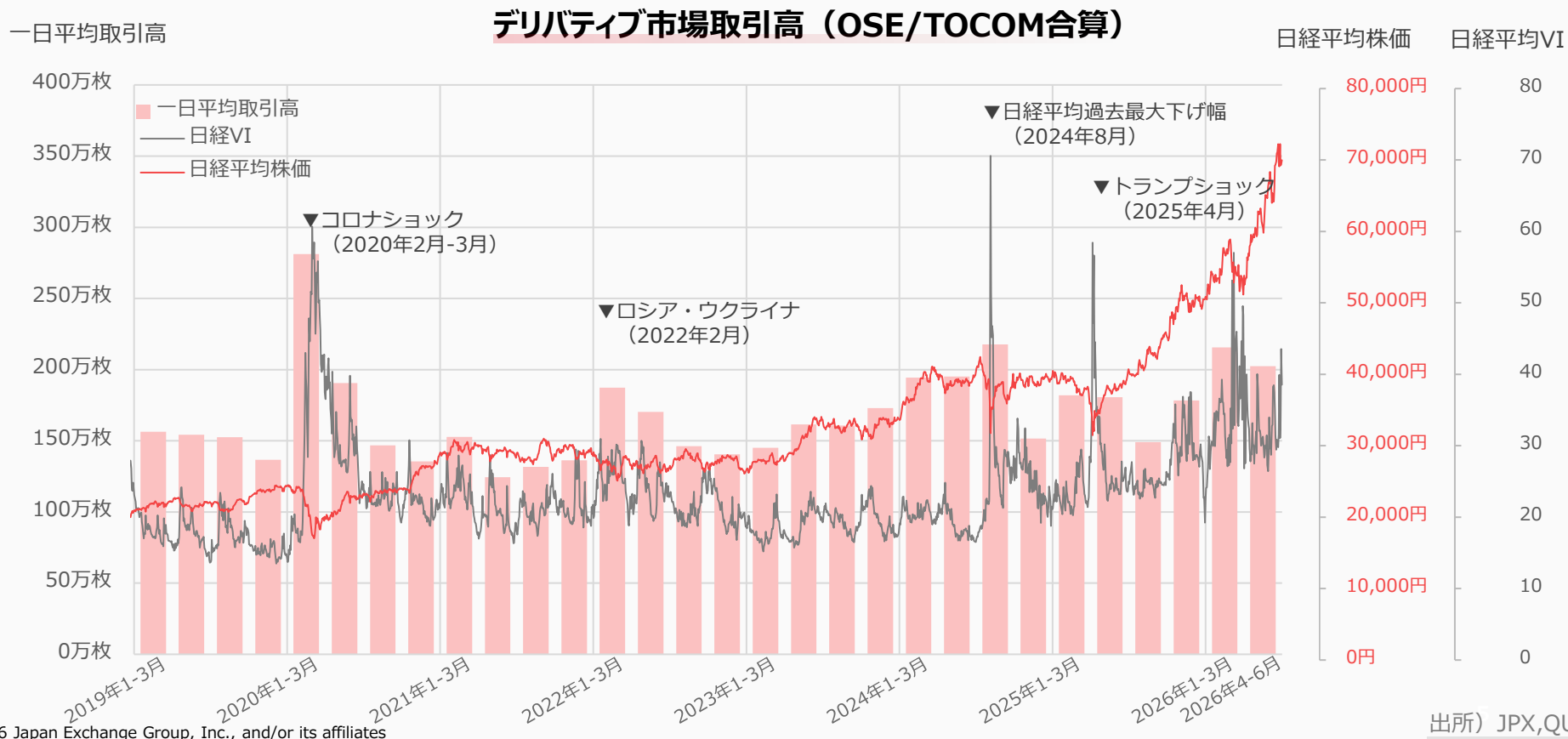
## 2. 各取組みの状況

## 1. デリバティブ市場の全体概況

## 2. 各取組みの状況

# デリバティブ市場の概観

- 2025年度の大阪取引所デリバティブの合計取引高は**4億3,891万枚**（一日平均**180万枚**）と、**年度ベースで過去2番目の取引高を記録**
- 主力エクイティ商品では2023年に取引開始した日経225マイクロ先物は2024年度一日平均取引高52万枚をさらに一段更新し、2025年度一日平均取引高は**64万枚と過去最高**



# 主要商品の取引状況

- 日経225マイクロ先物及び日経225オプションを中心に前年同期比（4月～6月）で取引が増加

商品名	年度取引高・取引代金			四半期取引高・取引代金		
	2024年度	2025年度	前年度比	2025年度 第1四半期	2026年度 第1四半期	前年 同期比
TOPIX先物	2,152万枚	2,184万枚	+2%	544万枚	563万枚	+3%
日経225先物	1,736万枚	1,467万枚	-16%	399万枚	347万枚	-13%
日経225mini	21,543万枚	17,252万枚	-20%	4,945万枚	4,207万枚	-15%
日経225マイクロ先物	12,684万枚	15,508万枚	+22%	3,418万枚	5,577万枚	+63%
日経225オプション	52,199億円	70,339億円	+35%	16,902億円	27,125億円	+60%
日経225ミニオプション	1,159万枚	1,374万枚	+19%	324万枚	337万枚	+4%
長期国債先物	1,178万枚	1,105万枚	-6%	265万枚	320万枚	+21%
金標準先物	892万枚	839万枚	-6%	225万枚	79万枚	-65%
プラッドバイ原油先物	131万枚	107万枚	-19%	32万枚	20万枚	-37%

# 近年の取組みについて

- 多様なニーズに応えるべく新商品の上市を実施

時期	2023年度以降の主な取り組み
2023年5月	短期金利先物（TONA3か月金利先物）を上場（OSE）
	日経225マイクロ先物・ミニオプションを上場（OSE）
2024年3月	電力先物（週間物）を上場（TOCOM）
	JPXプライム150指数先物を上場（OSE）
2025年5月	上海天然ゴム先物を上場（OSE）
	電力先物（年度物）を上場（TOCOM）
	日経225ミニオプションに水曜満期を追加（OSE）
2026年4月	通貨先物を上場（OSE）
	ポケットゴールド100先物・ポケットプラチナ100先物を上場（OSE）
	電力先物（中部エリア）を上場（TOCOM）
<b>2026年8月</b>	<b>電力現物・先物連携サービス「JJ-Link」フェーズ2稼働予定（TOCOM）</b>
<b>2027年4月</b>	<b>日経225ミニオプションの満期追加により毎日満期化予定（OSE）</b>

## 1. デリバティブ市場の全体概況

## 2. 各取組みの状況

# 有価証券オプション市場（かぶオプ）

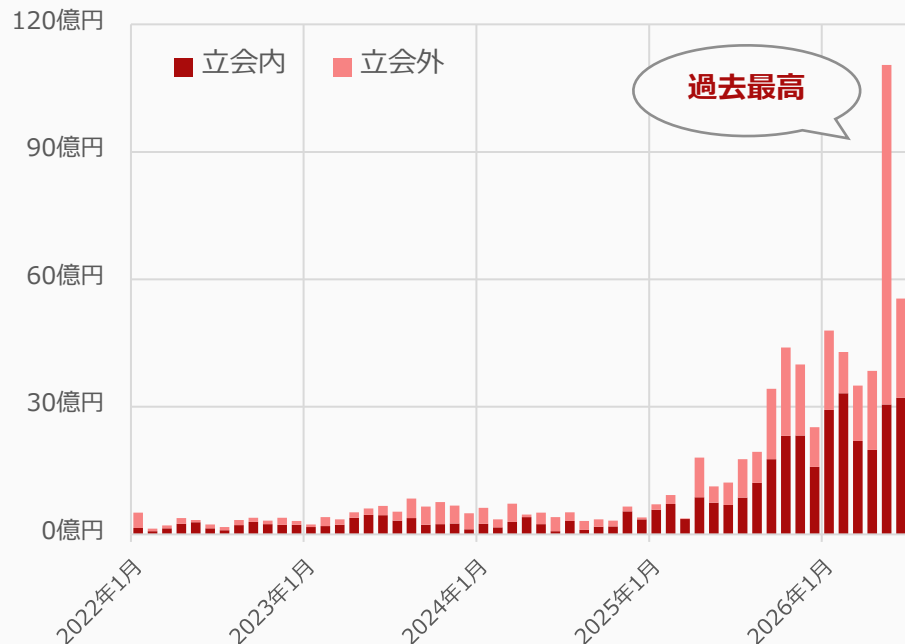
## マーケットメイカーによる気配提示の拡充

- 2024年から個別株を原資産とするかぶオプへ気配提示を開始し、現在は個別株30銘柄への気配提示を実現（気配提示銘柄は個別株30銘柄+ETF2銘柄の32銘柄）

## 過去最高の取引を記録

- 気配提示銘柄拡充・リテール向け取扱証券会社の参入で立会内取引が増加し、**2025年度取引高は過去最高**。さらに**26年5月**の一日平均（想定元本ベース）は**過去最高の110.4億円/日**

かぶオプ 一日平均 取引想定元本



マーケットメイク対象原資産

コード	原資産名	コード	原資産名
1306	TOPIX連動型上場投信	7267	本田技研工業
1321	日経225連動型上場投信	7741	HOYA
2914	日本たばこ産業	7974	任天堂
4063	信越化学工業	8001	伊藤忠商事
4502	武田薬品工業	8035	東京エレクトロン
5401	日本製鉄	8058	三菱商事
6098	リクルートホールディングス	8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ
6301	小松製作所	8316	三井住友フィナンシャルグループ
6501	日立製作所	8604	野村ホールディングス
6752	パナソニックホールディングス	8766	東京海上ホールディングス
6758	ソニーグループ	8801	三井不動産
6857	アドバンテスト	9101	日本郵船
6861	キーエンス	9107	川崎汽船
6920	レーザーテック	9432	NTT
7011	三菱重工業	9983	ファーストリテイリング
7203	トヨタ自動車	9984	ソフトバンクグループ

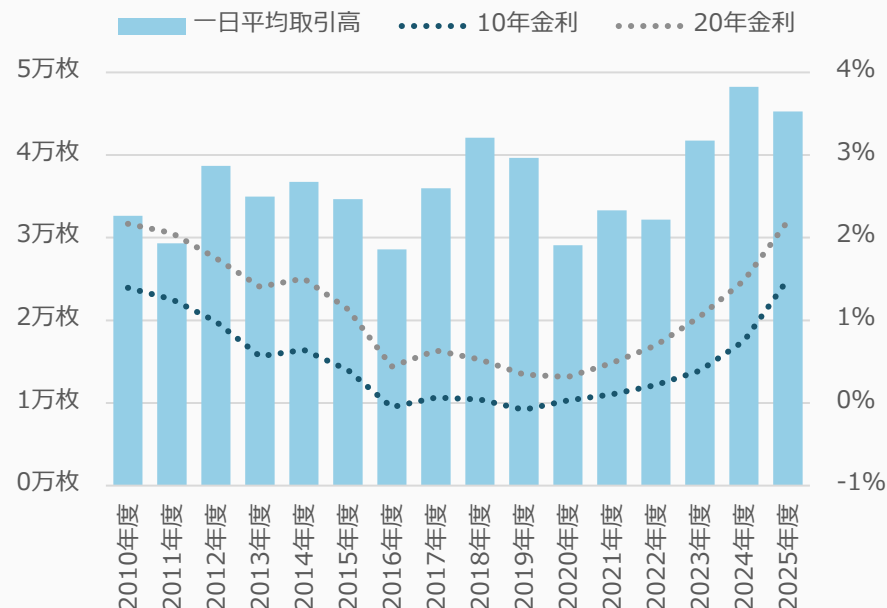
# 金利デリバティブ市場

## 主力の長期国債先物に加え投資家が多様な年限に着目

- 金融政策変更を背景に円金利への注目度は引き続き高く、円金利のベンチマークである長期国債先物（10年）では、昨年に引き続き年間取引高**1,000万枚超**
- 2025年7月初には**約3年ぶりに超長期国債先物（20年）**の取引が成立するなどポジティブな市場変化

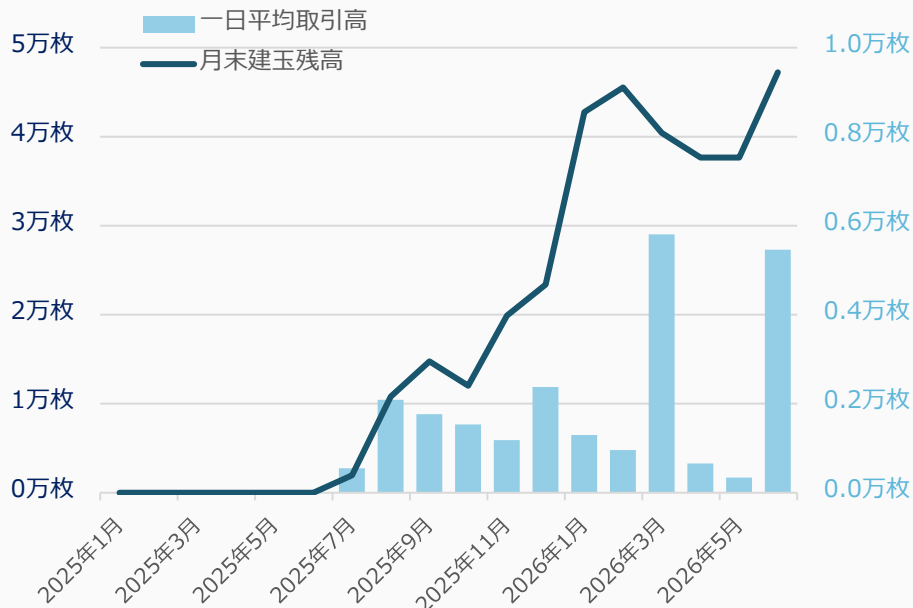
10年  
ゾーン

### 長期国債先物 一日平均取引高



20年  
ゾーン  
(建玉)

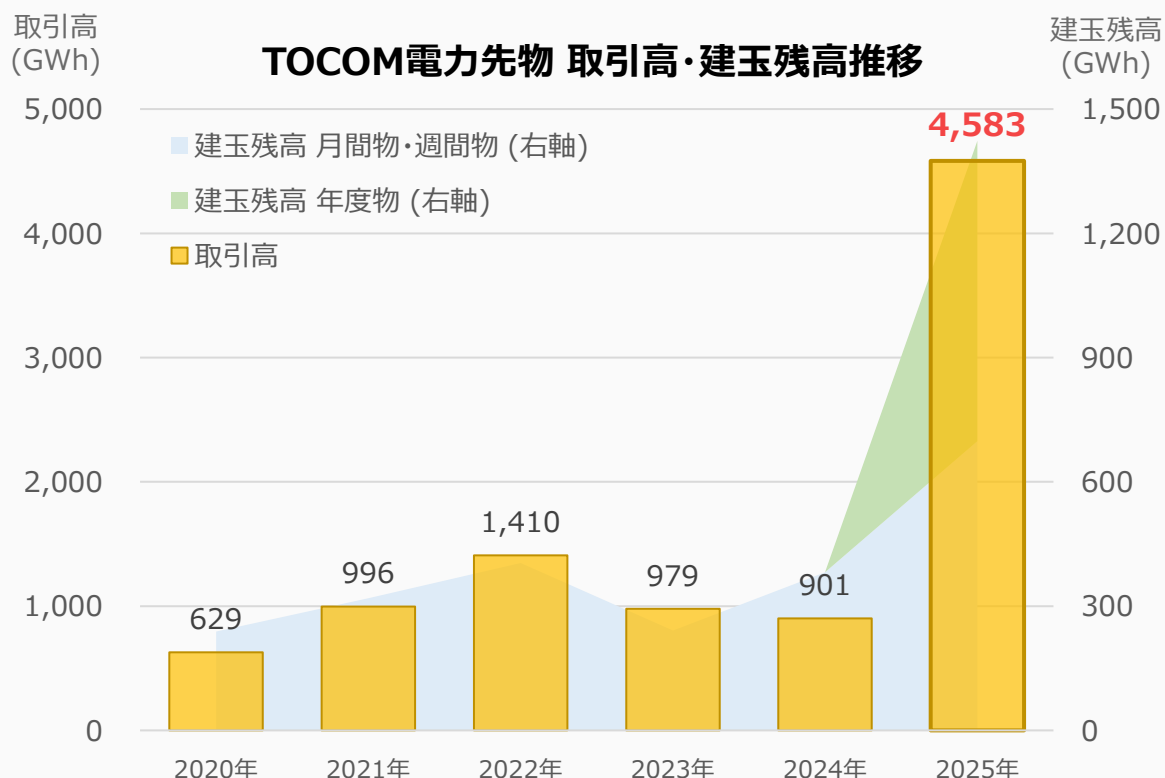
### 超長期国債先物 一日平均取引高



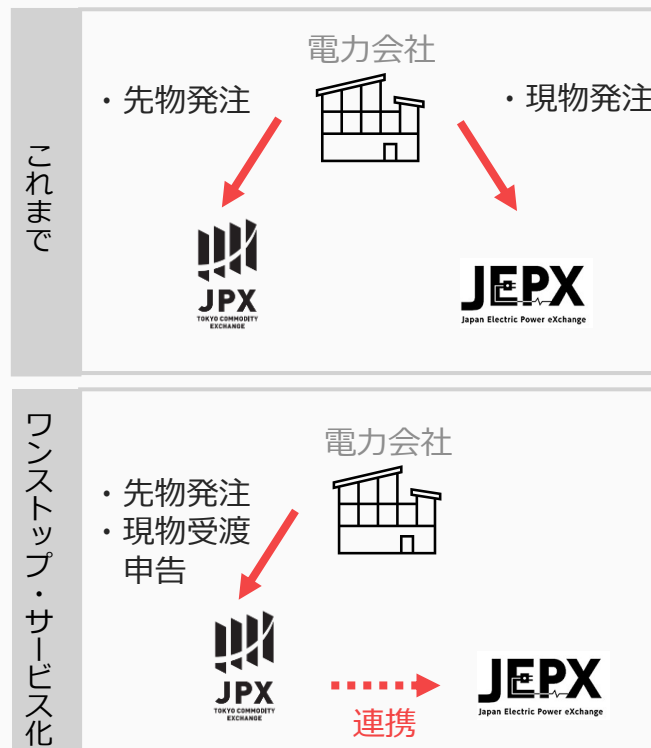
# 電力先物市場

## 市場規模が拡大し、現物・先物連携サービスも強化

- 国内大手銀行が電力先物取引に係る受託を開始したことなどから市場が拡大し、2025年取引高は2024年比で**5倍超に成長**
- 現物・先物取引間連携サービス「JJ-Link」のワンストップ・サービス（※）を本年8月に実現予定
  - ✓（※） TOCOMの先物ポジションに相当する現物をJEPXのスポット取引で販売・調達



### JJ-Linkサービスのイメージ



本資料は、株式会社日本取引所グループ（以下「当社」という）に関する情報提供のみを目的とするものであり、国内外を問わず証券の募集や勧誘を目的とするものではありません。当社証券は1933年米国証券法に従って登録がなされたものでも、また今後登録がなされるものでもなく、1933年米国証券法に基づいて証券の登録を行うか又は登録の免除を受ける場合を除き、米国において証券の募集又は販売を行うことは許されません。

本資料には、将来に関する記述が含まれております。こうした記述は、本資料作成時点における入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としており、かかる記述及び仮定は将来実現する保証はなく、実際の結果と大きく異なる可能性があります。また、事業戦略など、将来の見通しに関する事項はその時点での当社の認識を反映しており、一定のリスクや不確実性が含まれております。そのため、将来の見通しと実際の結果は必ずしも一致するものではありません。当社は、これらの将来の見通しに関する事項を常に改定する訳ではなく、またその責任も有しません。